

アイヌ語の縦書き

祖父と「マリモの唄」

イランカラ^フテ。

こんにちは。

新倉和果 クネ。

私の名前は新倉和果です。

静岡 オロワ ケク ルウエ ネ。

静岡から来ました。

ヤウンモシリ、カラ^フト、サモロモシッ タ カ クシンリチ ウタラ オカ
ルウエ ネ

私には北海道アイヌと樺太アイヌ、和人の先祖がいます。

クコロ エカシ 九州 モシッタ スク^フペ ネ ワ ペウレ ヒ タ シネ
ンネ オマナン。

私の祖父は九州で育つて、若い頃に一人で旅に出ました。

オラノ ヤウンモシッタ エク ワ 阿寒アイヌコタン イヨッタ ピリカ
セコロ ヤイヌ クス ネア コタン タ ネ^フキ ワ アン。

そして、北海道に来て阿寒のコタンが気に入ったので、そのコタンで働いたそうです。

ネオロタ 「マリモの唄」 セコロ アイエ シノツチャ エラマン。
そこで「マリモの唄」という歌を覚えました。

タン シノツチャ アナク シサムイタク オロワ アイヌイタク アニ カ
ンナ アカラ ペ ネ。

この歌は日本語からアイヌ語に翻訳されたものです。

エカシ オロセタツコ ソモ オイラノ エシカルン クス ミツポウタラ
エパカシヌ。

祖父はその歌を忘れず、なつかしがって、孫たちに教えました。

ピリカノ クキ エアイカ^フ コロカ アリキキノ クエカンピヌイエ ワ
クエラマン ペ ネ クス ヌ ワ エンコレ ヤン。

上手にできないけれど、頑張つて覚えたので聴いてください。

トーオカタ レラ シヤー

水面をわたる

ヤイコニシヌー

風さみし

アンコロ アカンヌプリー

阿寒の山の

トーオーター

湖に

シュニン トーラサンペー

浮かぶマリモよ

ネーコン ヤア カイキー

なと思う

トーラサンペ トーラサンペ シュニン トラサンペ
マリモよ マリモ 緑のマリモ

「マリモの唄」 エチエラマス ヤ？

「マリモの唄」 楽しかったですか？

クコロ エカシ アイヌサニ ソモ ネ コロカ アイヌプリ エラマスノ
アン ワ エヤム クス ソンノ カイヌコロ

祖父はアイヌではありませんが、アイヌ文化を学び、大事にしている、凄いと思います。

ヤクン タン オルシペ クイエ オケレ ナ。

これで、このお話を終わります。

イヤイライケレ。

ありがとうございます。

This is an example of Ainu text displayed in a vertical format. The Ainu language is traditionally written in a horizontal format, but here we demonstrate how it can be adapted to a vertical layout.

トウイラ。

ト、ク、プ、ハ

ピリカノ エチオカイル ヘ

イランカラ。プ。テ。宇佐恵将 クネ。東京 オロワ ケク。「イワンレクトウシペ」セ
コロカムイユカラ クイエ クスネ。ヌワ エンコレヤン。

アイヌラククル

ウタシパノウコイキプウタリ レンカプアニ アイヌピリカプ モシリアエケシ
ケ

イタク カシカムイ

アコロ イタク

ガッツ、ヒット、ラツキー

ガッツ、ヒット、ラツキー

アイヌ民族博物館編（1999）『川上まつ子の伝承―植物編Ⅰ―』（アイヌ民族博物館
館

伝承記録4）荻原眞子解説、丹菊逸治翻刻・訳注（2001）「千徳太郎治のピウス
ツキ宛書簡―「ニシパ」へのキリル文字の手紙―」『千葉大学 ユーラシア言

語文化論集』第4号 千葉大学ユーラシア言語文化論講座

萱野茂 (1963) 「クルコトナシのウエポタラ」『アイヌ文化』2号

—— (1974) 『ウエペケレ集大成』アルドオ: (2005) 新訂復刻『ウウエペケレ集大

成』日本伝統文化振興財団

—— (1976) 『チセ・ア・カラ』未来社

—— (1979) 『ひとつぶのサッチポロ』平凡社

—— (1988) 『カムイユカラと昔話』小学館

—— (1989) 『やさしいアイヌ語 (1)』平取町二風谷アイヌ語教室

—— (1996) 『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂

—— (1998) 『萱野茂のアイヌ神話集成』ビクター

—— (2005) 『アイヌ・暮らしの民具』クレオ

金成まつ筆録 金田一京助訳註 (1959—1970) 『ユーカラ集』I—IX 三省堂

金田一京助 (1923) 『アイヌ聖典』世界文庫刊行会

金田一京助・知里真志保 (1936) 『アイヌ語法概説』: (1974) 『知里真志保著作集』

4

平凡社所収

切替英雄 (1997) 「アイヌによるアイヌ語表記」『国文学解釈と鑑賞』1997年1月号

鉦路アイヌ文化懇話会編 (1998) 『アイヌ・モシリ』

葛野辰次郎 (1978-91) 『キムスボ』全5冊: 合冊本 (1999) 私家版

久保寺逸彦 (1992) 『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道教育委員会

札幌テレビ放送 (1978) 『サコロベの世界』

砂沢クラ (1983) 『私の一代の思い出 クスクツプ・オルシベ』みやま書房

田村すず子 (1996) 『アイヌ語沙流方言辞典』草風館

田村すず子編 (2001-2003) 『アイヌ語沙流方言の音声資料』1-3(文部省特定領域研

究 (A) 「環太平洋の消滅の危機に瀕した『言語』にかんする緊急調査研究」ELPR

知里真志保 (1942) 『アイヌ語法研究』: (1973) 『知里真志保著作集』3所収

—— (1953) 知里真志保 『分類アイヌ語辞典 植物篇・動物篇』: (1976)

『知里真志保著作集』別巻1 (本文の参照ページ数は『著作集』による)

——(1954)『分類アイヌ語辞典 人間篇』:(1975)『知里真志保著作集』別巻2